

# 2025年度 広島県制度活用検討会 開催報告

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業への取り組み

日時:2026年1月16日 17:00~18:30

場所:広島大学病院 臨床管理棟3階大会議室

参加人数:30名(10施設)



## 講演1

広島県健康福祉局薬務課肝炎対策グループ  
主任 井居 萌氏



制度について、具体的な説明がありました。さらに、複雑な制度であることから、不明なことがあれば、直接、施設へ説明会に出向くという有益な情報も得ることができました。

## 講演2

呉医療センター・中国がんセンター  
消化器内科科長 高木 慎太郎氏



制度利用にむけ、申請案内の体制が構築されていました。地道に、化学療法が予定されている患者を医師が拾い上げ、看護師や医事課と連携し、制度案内することで、昨年度は7件の申請に繋がったそうです！

## 講演3

広島大学病院 肝疾患相談室  
特任肝疾患コーディネーター 富田 琴美氏



該当者が公平に制度利用できるよう、多職種連携の具体策について紹介がありました。説明後も制度利用にむけたフォローアップが重要と強調されていました。

## グループ・ディスカッション (4G)

<グループディスカッションの進め方>

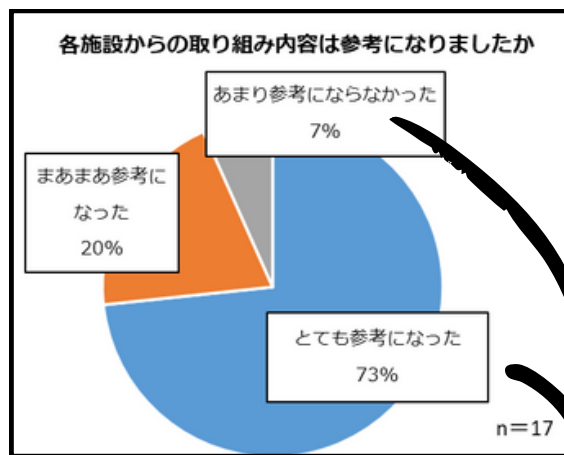
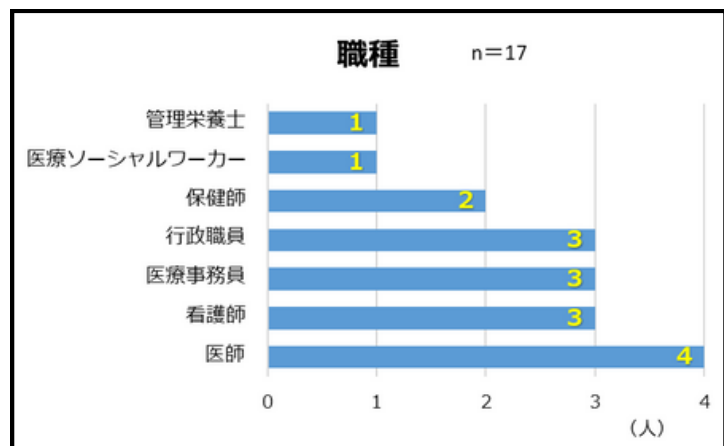
- 1.自己紹介
- 2.各施設の実情をグループ内で情報共有
- 3.事例についてディスカッション



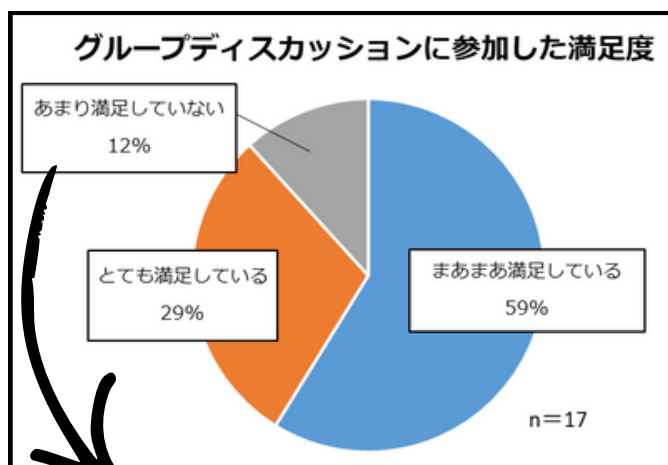
- ✔ 事例を提示
- ✔ 申請までの流れの中で、誰がいつ担当するのか具体的に考えてもらうポイントを示す
- ✔ 当院での一連の動きを例に示して、イメージをつかんでもらう

## グループディスカッション後、各施設の代表者からのコメント

- 拠点病院として、肝疾患相談室がほぼ一任されており院内連携の遅れが課題。他施設のように役割分担を明確化すれば、よりスムーズな体制になると思った。
- 基幹病院でもマンパワー不足を実感。施設により拾い上げのフローが異なり、答えは千差万別。効率性を考慮しながら、自院に最適なピースの組み合わせを各部署と相談し検討していきたい。
- 赴任したばかりで、把握できていない部分が多い。4月の新体制に向け、関係部署と相談し対応策を検討予定。
- 制度理解が不十分だったので勉強させてもらいに来た。自施設は、この領域の取り組みが遅れていると認識したので、まずは、肝疾患相談室なるものを立ち上げたい。コーディネーターの人数はいるが役割が不明確。増員と役割付与、多職種連携での体制強化を目指したい。
- 中規模病院で「誰が拾い上げるか」の役割分担が難航している。医療制度を理解をすることが何より大事だと思うので、こういう機会を作ってもらい本当に良かったなと思っている。明日から活用できる取り組みはすぐには思いつかないので、引き続き模索していきたい。
- 当院は医師が拾い上げしているが、やっぱり自分でやっているとモレが絶対ある。なので他職種で取り組めたら非常に助かると思った。今後は、入退院支援に関わる部署と連携し、生活に困っている患者さんからの相談中に該当者を拾い上げることもできそうだなと思った。



(自施設が) 具体的な取り組みができていないので、課題を認識しても、どう取り組めば良いかわからない。



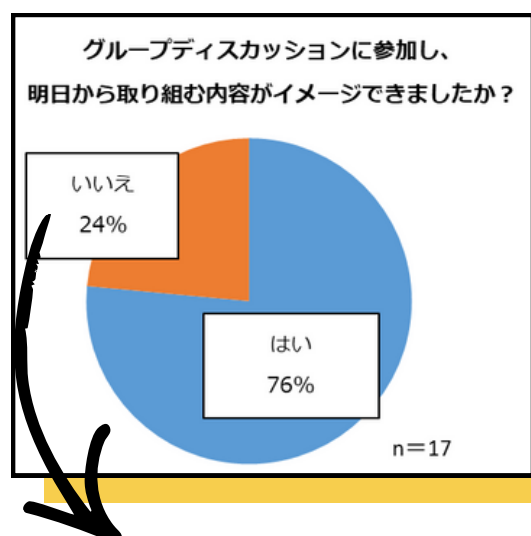
現状把握するには、時間が足らなかった・・・

医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職などが担う役割として、何をすべきか、どこの医療機関でも取り組める具体的な内容の話合いが出来るとよかった。

### 明日から取り組もうと思うこと

- 退院支援/医事課に頼んでみる
  - 医事課や入院担当クラークと協議したい
  - 該当者を抽出し、人数を把握したい
  - 該当者抽出、多職種連携、行政へ相談
  - 施設内で、制度について勉強会を開催したい
  - すでに医事課と協議を重ねており、今回の資料を元に再度交渉してみようと思う
  - 内科だけに係ることではないと分かった。外科領域にもアプローチしようと思う。
  - 医療機関が抱える問題(拾い上げ方法)、実際の拾い上げの方法など確認できた。
- 行政側として、申請側・医療機関の制度の理解によりつながる説明内容を検討していきたい。

皆様、とても貴重なご意見をありがとうございました。



(取り組み以前に) まずは、外来や医事課との連携や調整が必要。

ディスカッションの内容を事前に教えてもらえたら、自施設の取り組みを事前に確認できた。

施設内で取り組むには、(スタッフの)意識が低いので、肝疾患に対する知識の周知から必要。

職種毎にグループディスカッションしたかった。